

市指定文化財が新たに5つ追加されました

津久見の文化財

津久見市教育委員会では、市内に所在する各種文化財の中から、津久見市の歴史や文化、自然を知る上で、特に貴重なものを指定文化財として指定しています。これまで29件の文化財が国・県・市の指定文化財として指定されています。

このたび、3月5日付けで5件の文化財が新たに市指定文化財に指定されましたので紹介します。いずれも当市を代表する貴重な文化財で、歴史的にも民俗的にも価値のあるものです。

かい とう じ ぎょ りん とう 海徳寺の魚鱗塔

海徳寺所有

保戸島にある海徳寺の境内墓地に建つ塔。延享4年(1747)に建てられたことが分かる銘文が刻まれています。海に生活の糧を求めてきた人たちの信仰の深さや、地域の歴史を知る上で貴重な文化財です。



ふか ら づ えび す そら 深良津の蛭子像

深良津地区所有

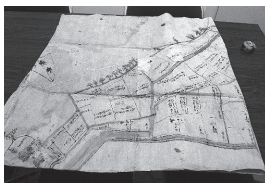
安永3年(1774)に、第8代佐伯藩主毛利高標に献納された9体の蛭子像のうちの1体と伝えられているもの。地域の漁業関係者の信仰対象として今なお大切に守られています。



さい ごう もん じよ 西郷文書

西郷國太氏所有

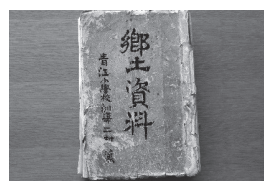
佐伯藩領の津久見の村組の大庄屋を務めた西郷家に伝わる文書群。初代藩主毛利高政が領内統治のために出した触書や、千怒新地の塩浜関係の資料など、貴重な内容のものが多く残されています。



ふた むら かおる ちよう き き ろく 二村薫調査記録

二村美枝子氏所有

上青江畑出身の元教師・郷土史家である二村薫氏が、明治～大正期にかけて青江地区全般の自然や歴史を調査・研究し、資料としてまとめたもの。中でも「郷土資料」や蜜柑関係の資料は特に貴重です。



なか だ か し や てん まん しや 中田鍛冶屋天満社イヌマキ

中田鍛冶屋地区所有

中田鍛冶屋天満社の境内に生育するイヌマキ。樹高は約5m、幹周は3.45mある。現在、市指定天然記念物となっている田尾・彦ノ内のタブノキの幹周の平均が2.6m、樹齢が320年であることから、このイヌマキも巨木としての価値が高いことが分かります。



●問い合わせ先 / 教育委員会 生涯学習課 ☎82-9528